

函館市医療・介護連携推進協議会 令和8年度第1回会議 会議録

- **会議終結日** 令和8年（2026年）8月20日（木）

※ 書面開催につき、顧問・委員の議事回答書の提出期限をもって終結した。

- **意見聴取依頼先顧問・委員（17名）**

大原顧問，岩井顧問，柳原顧問，氏家顧問，小西委員，高見委員，大谷委員，寺田委員，川口委員，亀谷委員，阿部委員，高橋委員，長谷山委員，吉荒委員，保坂委員，齋藤委員，氣田委員

- **議 事**

1. 協議事項（1）医療・介護・障がい福祉関係者間の連携に係るアンケート調査項目（案）について

※ 顧問・委員からの回答については、議事に対し特段の意見がない旨や事務局提案に異議がない旨の回答を省略し、提出された意見は趣旨を変えない範囲で表記等を整理して記載した。

【顧問・委員からの回答】

（氏家顧問）

医療機関，介護施設，障がい福祉のそれぞれから，互いに期待（依頼）することを具体的に挙げてもらい，それらを実現していくことも必要ではないか。このアンケートの項目を踏まえてからでも構わないが，検討してはどうか。

（小西委員）

基本的な構成はよく整理されていると思う。ただし，今回の調査目的から考えると，現状認識・満足度を尋ねる設問が中心であり，具体的な連携上の障壁と，4場面ごとの『目指すべき姿』につながる情報が十分に得られないのではないかと考える。

意見① 「できている／できていない」だけでなく，「何が障壁なのか」を具体的に聞く設問を追加する。

意見② 4場面（日常療養・入退院・急変・看取り）ごとに，「誰と誰の間で」「何について」連携が困難なのかを把握できるようにする。

意見③ 「現状の課題」だけでなく，「地域として今後どういう状態を目指すべきか」を問う設問を追加する。

意見④ 回答者の職種・所属機関を明確にし，医療・介護・障がい福祉間の認識の違いを分析できるようにする。

意見⑤ センター事業の評価と地域課題の抽出を分け，アンケート全体が長くなりすぎないように整理する。

現在のままだと「みんな多職種連携は大切だと思っています」という結果で終わる危険がある。

(寺田委員)

医療・介護・障がい福祉関係者の皆様が不安なこと・困っていることを記入してくれることを期待する。

(阿部委員)

「10年前と比較して」という文言は回答が難しいのではないか。

「機関」と「回答者個人」の評価が混在するおそれがある。

「10年前と比較して良くなった」という結果に結び付けたい意図があるのかもしれないが、検討が必要ではないか。

【協議結果】

顧問・委員からの意見を踏まえ、アンケート調査項目については、連携上の障壁の具体化、各場面における課題の把握、地域として今後目指す姿の把握等の観点から、調査目的および回答負担を考慮しつつ、事務局において最終調整を行うこととした。

なお、調査の実施に当たっては、1機関につき1回答を基本とし、設問によって回答者個人の認識が一定程度反映される可能性があることを前提に、回答者が把握する範囲で回答できるよう配慮するとともに、所属機関として回答する旨が伝わるよう、設問および依頼文の表現に留意することとした。

2. 協議事項(2) 文部科学省科学研究費助成事業基盤研究(B)「在宅医療・ケアにおける地域BCPベースのサージキャパシティ対応に関する研究」地域BCPモデル事業(以下、「地域BCPモデル事業」という)への参画について

※ 顧問・委員からの回答については、議事に対し特段の意見がない旨や事務局提案に異議がない旨の回答を省略し、提出された意見は趣旨を変えない範囲で表記等を整理して記載した。

【顧問・委員からの回答】

(氏家顧問)

参画に賛成する。参考資料の3. 実施概要の1)モデル地域の適格要件(4)に関しての「地域としての目標」を、これを契機に作成すべきと考える。

【協議結果】

地域BCPモデル事業について、本協議会は当該事業の実施主体としてではなく、助言・意見を提供する立場として関与することについて了承された。

また、実施体制の具体的な在り方については、今後、関係機関・団体との調整を踏まえて検討することとし、「地域としての目標」の整理についても今後の検討課題とすることとした。